

2021 年度事業報告書

I. 概況

世界的な新型コロナウイルス感染症の広がりから医療分野の研究開発そして治療に対する支援や助成の重要性が再認識されている。医学研究を支援する財団の意義も大きくなってきており、当財団でも研修事業や啓発事業を今後とも積極的に実施していきたい。

2021 年度は、痛風や尿酸に関係する研究者への助成及び研修会の開催や痛風協力医療機関の整備、多くの人々への啓発活動を軸に事業活動を行った。

事業を支える財政面では、低金利政策の影響に加え、長引く新型コロナウイルス感染症の流行による自粛、経済の減速などの影響があり、引き続き厳しい運営を求められている。

II. 事業の概要

1. 研究助成事業

痛風・尿酸・核酸代謝に関する臨床的或いは基礎的研究を対象として、その研究成果が疾患及び病態の成因と治療や予防に有用な影響を与えるものと期待される研究を対象に助成を行った。

募集は、財団ホームページや医学関係の新聞や雑誌などへの掲載を実施し、9月1日から10月29日まで応募を受け付け、応募総数は33件であった。

選考は理事会で選任された外部有識者を含む各専門分野の選考委員7名で応募書類を事前に審査し、その結果をもとに12月8日開催の選考委員会で審議を行い、研究助成対象者16名に総額600万円の助成を実施した。

[選考委員]

山中 寿 医療法人財団順和会山王メディカルセンター 院長
公益財団法人痛風・尿酸財団 理事長

金井 好克 大阪大学大学院 医学系研究科生体システム薬理学 教授

鎌谷 直之 スタージェン医療人工知能研究所 所長、財団理事

高木 康 昭和大学 名誉教授

針谷 正洋 東京女子医科大学 膠原病リウマチ内科 教授

細谷 龍男 東京慈恵会医科大学 名誉教授、財団理事

森崎 隆幸 東京大学医科学研究所 特任教授

[研究助成対象者 16 名]

[氏名]	[所属]	[研究テーマ]
中柄 昌弘	名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻実社会情報健康医療学・准教授	エピゲノムワイド関連研究による尿酸・腎機能関連 DNA メチル化サイトの探索
小川 亜希子	東北大学 加齢医学研究所 助教	新規核酸型液性因子 m6A の代謝異常による疾患病態解明
安西 尚彦	千葉大学大学院医学研究院 教授	構造活性相関に基づく尿酸トランスポーター MCT9 (<i>SLC16A9</i>) の多選択性基質認識機序の解明
高田 龍平	東京大学医学部附属病院薬剤部 講師/第一副部長	新規尿酸トランスポーターと血清尿酸値変動薬に関する研究
鶴田 文憲	筑波大学 生命環境系助教	HPRT1 による性差特異的なミクログリア成熟の制御
中村 晋之	九州大学病院 腎・高血圧・脳血管内科	血清尿酸値が急性期脳梗塞発症後の転帰に及ぼす影響に関する検討
松尾 洋孝	防衛医科大学校 分子生体制御学講座・准教授	痛風・高尿酸血症と低尿酸血症による新型コロナ感染症のリスク解析とその予防にむけた研究
西宮 健介	東北大学循環器内科学	冠動脈に生じる結晶性炎症を標的とした系統的画像研究
深江 治郎	順天堂大学医学部附属練馬病院脳神経内科先任准教授	高尿酸血症モデルマウスにおける α -synuclein 伝播制御の解明
古橋 真人	札幌医科大学 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	COVID-19 原因ウイルス SARS-CoV-2 の宿主側受容体 ACE2 と尿酸との関連についての検討
原 英樹	慶應義塾大学医学部微生物学免疫学特任准教授	尿酸結晶によるインフラマソーム炎症の誘導機序の解明
藤原 めぐみ	日本医科大学	神経細胞エネルギー強化による若年性アルツハイマー病の予防的戦略
草野 輝男	日本医科大学助教	哺乳類におけるキサンチン酸化還元酵素活性変換の役割
齋藤 佑一	千葉大学医学部附属病院	プリン代謝におけるキサンチン酸化還元酵素に注目した虚血性心疾患患者の冠動脈プラーク形成メカニズムの解明
藏城 雅文	大阪市立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学	尿酸の COVID-19 重症化における意義の解明
佐山 美紗	千葉大学医学部附属病院 薬剤師	化学構造から高尿酸血症誘発薬剤を予測する新規手法の確立

2. 研修会開催・痛風協力医療機関推薦事業

① 第32回痛風・尿酸研修会

全国の医師・薬剤師・栄養士など医療関係者を対象として9月12日(日)にZoomシステム利用によるWEB形式にて開催した。
痛風協力医療機関への案内やホームページにて参加者を募り、医療関係者など104名の参加があった。

研修プログラムと講師は下記の通り。

第1部 高尿酸血症・痛風診療の基本 座長 上田孝典 福井大学学長

・痛風関節炎の診断と治療

谷口 敦夫 結核予防会複十字病院膠原病リウマチセンター

・高尿酸血症と合併病態の治療

藏城 雅文 大阪市立大学医学部 内分泌代謝内科学講師

第2部 高尿酸血症・痛風診療の進歩

座長 山本徹也 大阪暁明館病院検診センター長

・高尿酸血症と痛風のエビデンス：この1年間のアップデート

市田 公美 東京薬科大学薬学部教授

・尿酸研究の最前線：この1年間のアップデート

久留 一郎 鳥取大学院医学研究科 再生医療学分野教授

第3部：スポンサードセミナー 共催：株式会社 富士薬品

・尿酸トランスポーターURAT1 選択的阻害剤ドチヌラドの開発経緯

岩永 崇 株式会社富士薬品総合研究所統括部長

座長 山中 寿 公益財団法人痛風・尿酸財団理事長

第4部：質疑応答 司会 藤森 新 両国東口クリニック名誉院長

第33回痛風・尿酸研修会は9月11日(日)に同様のWEB形式で開催予定。

② 痛風協力医療機関推薦

新たに下記医療機関を推薦した。この結果、3月31日現在の痛風協力医療機関は全国で合計120機関となった。

【新規医療機関】

医療法人社団平世会 若林医院 (古谷 武文 先生)

東京都世田谷区若林 3-33-15 03-3421-0282

3. 啓発事業

① インターネットによる啓発

ホームページのページビュー数(アクセス数)は、昨年度新設した「痛風・尿酸ニュース」などが奏功し年間 156 万件を超えるまでになったが、ホームページ内の滞留時間はまだ短い為、更なる改定が必要と考えている。

今後も痛風や高尿酸血症などについての最新知識や診療機関の情報を掲載し便宜に供していきたい。

② 患者や家族などから問い合わせへの対応

診療医療機関の紹介依頼には、居住地域を考慮の上で痛風協力医療機関を紹介し、発作時の対処方法や食事に関することなどに対しては、専門医師などに問い合わせを行いその内容を伝えている。

③ 小冊子及び会報による啓発

小冊子「尿酸値をコントロールする」は、全国協力医療機関などを通じて患者や希望者に配布を行っている。

会報については、1 月に財団理事などからの寄稿文や最新情報を掲載した新年号を発行し会員や協力医療機関に配布した。

Ⅲ. 会員の現況 (2022 年 3 月 31 日現在)

個人賛助会員 103 人

団体賛助会員 10 団体

特別賛助会員 8 団体

以 上